

7月例会「ブータン山の教室」7月21日(木)

ヒマラヤ山脈の標高4800メートルの村を舞台に若い教師と子どもたちを描いた作品

早々と梅雨明け宣言ができました。暑い日々が続いています。お元気でしょうか。

5月例会では3月例会に続き、たくさんの方が2022年度費会を一括納入してくれました。切手もはがきもたくさんいただきました。ご協力ありがとうございます。

さて、7月例会は、お友達お誘い例会として、会員同伴または紹介で、臨時会費1,000円で鑑賞できるようにします。お誘いチラシを入れています。活用ください。

参加方法：①受付で、紹介者氏名と参加者氏名・連絡先を参加記入します。②臨時会員会費1,000円を納めます。

また、9月例会(8月31日)は、兵庫県映画センター主催加古川シネマクラブ共催で特別例会とします。「ひまわり」と「飛べダコタ」のどちらか1本はチケットで入場できます。2本目は900円になります。ご注意ください。

2年ぶりに全国映連「映画大学」が岡山で開かれます。片淵須直監督初め、多彩な講師陣です。1日だけの参加もOKです。一緒にいきませんか。

7月例会では、熱中症と新型コロナウイルスに気を付けましょう。入館時の手指の消毒、マスク着用 そして水分補給もお忘れなく。

例会のお知らせ

■名称／第118回例会「ブータン山の教室」

■日時／2022年7月21日(木)

①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:30～

■場所／加古川総合文化センター大会議室

(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

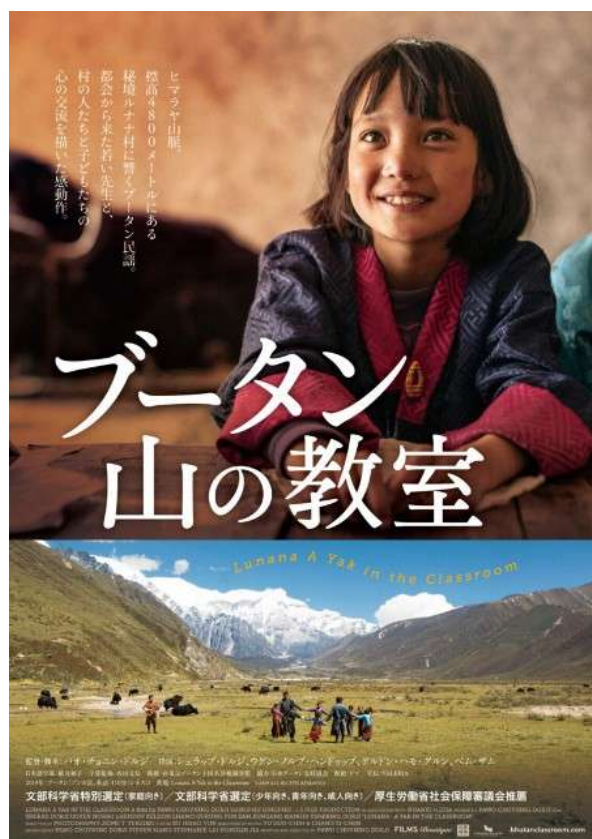
■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡してください。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／ブータン山の教室

■監督・脚本／パオ・チョニン・ドルジ

■出演／セラップ・ドルジ、ウゲン・ノルブ・ヘンドゥップ、ケルドン・ハモ・グルン、ペム・ザム



■データ／2019年、ブータン、110分

■ジャンル／ヒューマンドラマ

■ストーリー／現代のブータン。教師のウゲン（セラップ・ドルジ）は、歌手になりオーストラリアに行くことを密かに夢見ている。だがある日、上司から呼び出され、標高4,800メートルの地に位置するルナナの学校に赴任するよう告げられる。一週間以上かけ、険しい山道を登り村に到着したウゲンは、電気も通っていない村で、現代的な暮らしから完全に切り離されたことを痛感する。学校には、黒板もなければノートもない。そんな状況でも、村の人々は新しい先生となる彼を温かく迎えてくれた。ある子どもは、「先生は未来に触れることができるから、将来は先生になることが夢」と口にする。すぐにでもルナナを離れ、街の空気に触れたいと考えていたウゲンだったが、キラキラと輝く子どもたちの瞳、そして荘厳な自然とともにたくましく生きる姿を見て、少しずつ自分のなかの“変化”を感じるようになる。（作品ホームページから）

私の映画KAN「トランティニャンとオードリー」

フランスの俳優“ジャン・ルイ・トランティニャン”が6月17日亡くなりました。91歳です。トランティニャンといえば、映画「男と女」(1966年)がとて有名です。僕が知っているトランティニャンはマカロニウエスタンに出演していて、「殺しが静かにやって来る」(1968年、イタリア・フランス合作)のタイトルで声を失った殺し屋の役です。マカロニウエスタンでは、珍しく雪が降る街に現れ、ブローニング自動式拳銃(中国映画によく登場していました)を使い、死闘を繰り広げます。ストーリーも含め、驚かせる映画でした。次に「男と女」。当時名画座などで再上映をしていましたが、中学生だったので“見てはいけない”思いがしていました。後年、立派な大人になってみたとき、映像の美しさと抱擁のシーンに合わせ、“フランシス・レイ”のオルガンと「ダバダバダ」のスクヤットが余韻を残しています。そして、53年後、2019年クロード・ルルーシュ監督のもとで同じキャストで続編「男と女・人生最良の日々」を撮っています。トランティニャン89歳でした。

さらにもう一本。「ローマの休日」(1953年)中学生の時、テレビで観たときの“オードリー・ヘプバーン”がなんと美しい女性なのか〜と思いました。存命であれば今年93歳。この5月に「オードリー・ヘプバーン・夢と美と愛の軌跡」(2022年、イギリス、100分)ドキュメンタリーのオードリーに会いに行きました。「ローマの休日」で初主演、その年アカデミー主演女優賞を受賞。オードリーが出演する数々の映画と知られざる子供時代の出来事など同じスクリーンに映し出さ

れていきます。プライベートでは、離婚を経験したあとユニセフ親善大使になり、紛争地域に出向き貧困と飢餓で苦しむ子供たちの様子を世界に伝えていきます……ラスト、年を重ねたオードリーはやはり美しかった。1993年1月20日、64歳死去。29年前です。(芳)



前回の例会報告

5月18日(水)の5月例会では、定収入のない少し頑固な父親が、自閉症スペクトラムを抱える息子と2人だけの世界を楽しんできたが、息子の将来を心配する別居中の妻が施設へ入所することを決めたことによって起きる出来事をコミカルに描いた「旅立つ息子へ」を鑑賞しました。

参加会員93名、ほか明石シネマクラブから11名。

明石シネマクラブ例会情報

■名称/第72回例会『ぶあいそうな手紙』

(2019年、ブラジル、123分)

■監督/アナ・ルイーザ・アゼベード

■出演者/ホルヘ・ボラーニ、ガブリエラ・ポエステル

■ジャンル/ヒューマン

■解説/ブラジル南部、ポルトアレグレの街。エルネストは78歳の独居老人。隣国ウルグアイからやって来て46年。頑固で融通がきかず、本が好きでうんちく好き。老境を迎え、ほとんど目が見えなくなった。もうこのまま人生は終わるだけ。そう思っていたある日、一通の手紙が届く。差出人はウルグアイ時代の友人の妻。エルネストは、偶然知り合ったブラジル娘のピアに手紙を読んでもらうように頼む。「手紙の読み書き」のため、一人暮らしのエルネストの部屋にピアが出入りするようになるが……それは、エルネストの人生を変える始まりだった。(作品ホームページから)



■日時/8月25日(木)①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所/アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付/会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemacub@nifty.com

http://kagogawacinemacub.c.ooco.jp/

※ファクシミリの番号が変わっています。

会員数 132人(5月18日現在)